

## 会議の趣旨

内湾、内海、河口域など陸域に囲まれた閉鎖性の高い海域は、その恵まれた自然条件ゆえに、古くから漁場、産業活動の場、海上交通及びレクリエーションの場として利用され、その沿岸域に住む人々の豊かな日常生活を支えるとともに様々な文化を育んできました。

しかし、閉鎖性海域は海水の交換が悪く、環境汚染に対して脆弱であるという性質を有することから環境の保全には特別な配慮が必要とされてきました。

世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス会議）は、人類共通の財産である閉鎖性海域の恵沢を次世代に継承していくことが大きな責務であるという観点にたち、1990年（平成2年）に神戸の地において世界の科学者、行政担当者、企業関係者、市民、NGO等が一堂に集い第1回が開催されました。以後10年、世界各地で3回にわたる会議が開催され、それぞれに大きな成果をあげてきました。

しかし、この間の様々な努力にもかかわらず、世界各地の多くの閉鎖性海域では、生物生息環境の悪化、生物種・個体数の減少、漁獲量の減少が生じており、このままでは閉鎖性海域の環境は更に悪化の一途をたどり、ひいては地球全体の環境にも大きな影響を与えるものと危惧されています。

一方、環境に対する市民意識の変化に伴い、環境保全に対する考え方も、当初の水質改善、有害物質対策等の公害対策中心のものから、生物多様性の保全、健全な水循環の回復・確保、豊かな自然とのふれあいの確保など幅広い環境保全を目指すものに変化してきました。

21世紀初頭に再び神戸の地で開催する「第5回世界閉鎖性海域環境保全会議」ではこれまでのエメックス活動を総括し、検証するとともに20世紀において解決できなかった閉鎖性海域が直面する次のような様々な課題のあり方について科学者、行政担当者、企業関係者、市民、NGO等が意見交換します。

- （1）閉鎖性海域の環境修復・創造
- （2）科学者、行政担当者、企業関係者、市民、NGOの参加と連携
- （3）情報技術の発展を社会的背景として新たな活動の構築
- （4）陸域と海域のガバナンス
- （5）21世紀を担う子供たちに向けた環境教育

また、新たなネットワークと地域、世代、組織を越えたパートナーシップの形成のもとに閉鎖性海域ごとの地理的、自然的、社会経済的な条件を考慮しつつ、環境修復・創造の観点から生活、産業等を含む人間と自然との共生の場として一体的、総合的に保全していくため、第5回エメックス会議を、新しい世紀における世界の閉鎖性海域環境保全活動のための具体的な方策を提言する「新たな出発点」とします。